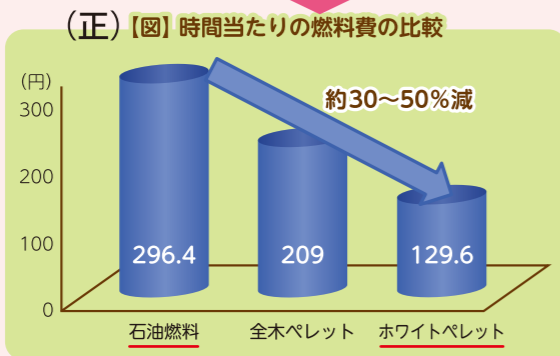
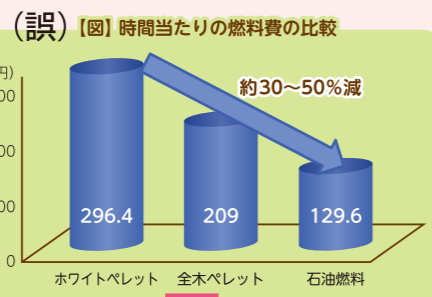


「小さな拠点づくり」に向けたスキルアップ研修会
がんばっている地域の情報共有会が開催されました。



平成29年3月4日(土) 男女共同参画センターあすてらすにて県内の14地域がH28年度の取組報告を行いました。続いて各地域のポスターセッションによる交流、高知県の事例発表、パネルディスカッションなど盛り沢山の内容でしたが、多くの参加者から「よかった」という意見をいただきました。
(地域支援スタッフ)

Vol.23号の
訂正について



【資源環境科】
小型・高性能な農業用木質バイオマス燃料加温機の紹介の特集の図の中で表記ミスがありました。正しくは(右)図のようになります。
誤表記がありましたことを深くお詫び申し上げます。



平成29年度は、年末年始に加えて、**土曜日と祝日が休館**になります。
ご利用の際はご注意ください。

休館日：土曜日・祝日
年末年始
(12月29日～1月3日)

編集者のつぶやき 暖かくなってきました。ゆっくり、ゆったりとのんびりしたい気分になります。動物は活発になり森を駆け回っています。こんな動物達や植物を見に出掛けるのもい

いですね。久々に自転車に乗ってみました。風が少し冷たいですが、景色も良く気分は最高でした！ (A.N)

次号 特集予告 中山間地域研究センター大特集!!

中山間プレス
Webサイト



【特集1】
広葉樹林の再生について
森林保護育成科

【特集2】
イノシシの侵入防止柵の
設置ポイントについて
鳥獣対策科

【研究内容】

広葉樹資源の利用促進を進める上で、伐採後の森林のすみやかな再生は、資源の利用面だけでなく、森林の持つ公益的機能の維持という面においても重要となります。再生力が低下するといわれる高齢広葉樹*の伐採後の再生状況を把握するための調査を行っています。

*高齢広葉樹：50年生以上の広葉樹

【広葉樹資源の利用】

古くから島根県の広葉樹林は、左の図のように、燃料用の炭や薪を供給するために、20～30年で伐採して、切り株からの萌芽(ほうが)を成長させて林を再生・利用する管理が行われてきました。

しかし、1960年代以降は、ガスや電気が普及して、炭や薪が使われなくなりました。代わって、樹木を50年以上に成長させて伐採し、紙の原材料などに利用しています。この結果、県内の高齢広葉樹林は広葉樹林面積全体の7割を占めています。



20～30年で伐採



萌芽による再生



薪や炭として利用

1950年代以前の広葉樹資源の利用イメージ

【調査方法】

伐採された広葉樹林に20m×20mの調査地を設定し、次の項目を調査しました。

- 切り株からの萌芽の発生・生存率(=萌芽率)
- 種子から発芽した樹木の生育状況等

【調査結果】

高齢広葉樹の萌芽率は、4年経過時で50%程度で安定することがわかりましたが、50%の切り株が枯死していると言えます。

伐採前の資源量を目安とした再生には中・高木種の種子から発芽した樹木も必要です。これまでの調査では、多くの伐採地で再生に必要な種子由来の樹木の成長を確認しています。

【今後の予定】

伐採跡地ではササが生い茂る事例が多く見られます。ササが萌芽や種子から発芽した樹木に与える影響についても現在調査中です。また、自然の力だけではすみやかな森林再生がみられない場合の対策について検討します。



【お問い合わせ：森林保護育成科 (TEL：0854-76-3822) まで】



島根県の野生鳥獣による農作物被害額のうち、約80%がイノシシによるものです。特に水稲への被害が大半を占めており、農業にとってイノシシ対策は必須となっています。

田畑への侵入を防ぐためには、侵入防止柵の設置が有効です。今回は、電気柵と広域柵(ワイヤーメッシュ)について、設置時のポイントなどをご紹介します。



イノシシによる水稲被害

イノシシは昼間にも農地に出できます



◆ 電気柵設置時のポイント

電気柵設置例



チェック項目

- 電線の高さ：地面から20cmの間隔で2～3段設置
- 通電時間：24時間通電
- 電圧：4,000V以上
(電牧器から一番遠い箇所まで計測しましょう)
- 維持管理：こまめな電圧の確認

■ 草刈りを楽にする方法

- 通電しやすい**防草シート**を張る
- **突出しクリップ**を使うと電線下の草刈りがしやすくなる



◆ 広域柵(ワイヤーメッシュ)設置時のポイント

チェック項目

- 設置場所：急峻な斜面を避けて、緩やかな場所を選ぶ
- 設置環境：柵沿いを歩けるような環境に設置する
- 維持管理：定期的な見回りを行う



維持管理用の道が設けられた広域柵



倒木による柵の破損

■ 広域柵を設置した後の状況について調査しました

定期的な見回りを行っていない集落では、倒木による柵の破損などの修復が行われず、イノシシが侵入していることがわかりました。そのため、見回りや草刈りを行う体制を作ることが必要です。

侵入防止柵には、他に金網柵やネット柵などの種類もあります。いずれの侵入防止柵も、見回りや草刈りなどの**維持管理**をしっかりと行うことによって、イノシシの侵入を防ぐことができます。

美味しい作物を収穫するためにも、正しい知識を持って対策に取り組みましょう！

各種の被害対策についてのパンフレットはこちらからダウンロードができます。

QRコード



URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/admin/region/kikan/chusankan/choju/t_pamphlet.html



【お問い合わせ：鳥獣対策科 (TEL：0854-76-3818) まで】

